

第66回 EVENING THEATER

土木のこころ

～琵琶湖疏水から余部橋りょうまで～

2012年6月27日(水) 開場 17:30 開演 18:00

土木学会 講堂 (JR中央線・地下鉄丸の内線・南北線「四ツ谷」駅下車徒歩5分)

上映会

作家 田村喜子先生 追悼

余部橋りょう—さらなる100年へ

土木学会選定映像 土木学会第24回映画コンクール最優秀賞

明日をつくった男

—田辺朔郎と琵琶湖疏水—

土木学会選定映像 土木学会第21回映画コンクール最優秀賞

講演会

東大名誉教授 高橋 裕氏

「土木の心と田村喜子さん」

HPにて参加申込み受付

<http://committees.jsce.or.jp/avc/>

問合せ先：土木学会土木学会図書館 土木技術映像委員会担当

イブニングシアターは、CPDプログラムです。会員証でCPDポイントの自動登録が可能ですのでご参加の際にご持参ください。

上映作品

余部橋りょうーさらなる100年へ

土木学会選定映像 土木学会第24回映画コンクール最優秀賞

企画：清水建設 制作：(株)キャメル 2010年 20分

当作品は、1912年完成のトレスル式鉄橋の老朽化に伴うコンクリート橋への架け替え工事を記録した映像です。営業線を運行しながらの超近接施工の様子や、強風による転落事故の教訓をもとにした耐風性の実験過程、また超重量の橋桁を短時間のうちに回転・移動し在来線と接続する工事のクライマックスの瞬間などを、設計者、現場所長のインタビュー、現場技術者の働く姿、あるいは余部の四季折々の風景を通して、わかりやすく伝える工夫が随所に見られます。高度な施工技術を映像に捉えた技術的な価値の高い作品であると同時に、土木に興味を持つ一般の方々にも親しみやすい作品となっています。



明日をつくった男 ー田辺朔郎と琵琶湖疏水

土木学会選定映像 土木学会第21回映画コンクール最優秀賞

原作：田村喜子著『京都インクライン物語』

企画・製作：虫プロダクション株式会社

監督：牛山 真一 2003年 86分

明治のはじめ、維新の傷跡を深く残し、東京遷都による衰退の危機にあった京都。その京都が近代都市として再生を果たす契機となった琵琶湖疏水は、琵琶湖と京都を結ぶ水路を造り、水道水と農業用水を確保し、交通路としての運河を整え、さらには水力発電施設の建設に取り組むというようにわが国最初の本格的総合開発事業でした。この工事の責任者を務めたのが田辺朔郎(1861-1944)です。この作品は、理想に燃えた若き土木技術者 田辺朔郎が、当時の技術では無謀、不可能と誰もがその成功を危ぶんだ難工事を克服し、水力発電を取り入れるなどその決断力と実行力、独創性などをアニメーションやCG、記録映像を巧みに織り込みながら描いています。100年先の未来を見据えて前代未聞の難工事に挑んだ田辺朔郎の姿を通して、新しい未来を自分たちの手で築こうとする明治の人々の気概と魅力を、21世紀を担う子供たちに伝えようとする劇映画です。



作家 田村喜子先生 プロフィール

昭和7年10月25日京都に生まれる。京都府立大卒業後、京都新聞社を経て作家活動に入る。土木をテーマに多くの作品を執筆するが、平成24年3月24日急逝。享年79歳

土木を主題にした作品

昭和57年 京都インクライン物語 (新潮社)
昭和61年 北海道浪漫鉄道 (新潮社)
平成2年 物語 分水路ー信濃川に挑んだ人々 (鹿島出版会)
平成14年 土木のこころ (山海堂)
平成21年 小樽運河ものがたり (鹿島出版会)
平成22年 余部鉄橋物語 (新潮社)

昭和58年 第1回土木学会著作賞 (「京都インクライン物語」)



『京都インクライン物語』
 (「明日をつくった男」の原作)



全国の鉄道ファン必読!
新橋誕生とともに使命を終える旧橋ー〇〇年の物語。